



### 本当にありがとう お疲れさまでした 村上事務局長 笑顔で「卒業」

20年近くの長期に渡り、全国協議会の大番頭として会計に携わり、またよろず相談所として全国の加盟団体事務局や患者さん・ボランティアさんからの数々の難題、問い合わせに対応して参りました村上美智子事務局員が、12月末日をもって定年退職されました。



大きな穴がぼっかり空くことになり、言葉に言い表せないほど寂しい思いでいっぱいだった。長い間(当初13加盟団体、現在45加盟団体)お世話になりました、ありがとうございます。全国の方より楽しかったこと、嬉しかったこと、残念なこと、悔しかったこと、貴重な体験を頂けたことに感謝いたします。全国協議会事務局も様変わりすることと思いましたが、今まで同様よろしくお願ひいたします。ありがとうございました。



ご覧ください。そこかしこに、笑顔が溢れています。神妙な面持ちの方もいらっしゃいますが、なにか思うところがあるのでしょうか。実は、ついさきほどまで、涙を流していた方も大勢いらっしゃいました。感謝の気持ちと惜別の念が、そうさせたに違いありません。村上美智子さん、ありがとうございます。「やめないで」コールが響き渡る現場から、中継でお伝えしました!

### スゴイことになっている! 沖縄県ドナー登録受付状況

国の緊急雇用創出事業の一ツとして、骨髄バンクドナー登録説明員の雇用を「沖縄県」月から3名を雇用してスタ...

### ブロックセミナー報告

#### 九州 解散、休止の一方で 新団体設立も!

11月15日、佐賀県赤十字血液センターで九州地区のブロックセミナーが開催されました。



ところが佐賀開催でも張り切っておられた職持敏子さんが骨折で入院されるといふハプニングが発生、打ち合わせを兼ねお見舞いに行つた時、職持さんより「どうせ骨折するのならセミナーが終わつた後なら...」、「和気あいあいと楽しくやって下さい」との伝言がありました。

さて、当日は大分、沖縄を除く各県からと全国協議会の二見理事を含め16名の方が参加しました。会議の内容は、九州骨髄バンク推進連絡会議の解散と熊本骨髄バンク支援会の一時休止の報告があり、話をしましたが、とても寂しいものです。次に新団体設立の報告が発起人で代表に決定した能地敬一さんから「福岡から骨髄バンクの団体を無くす事はできない。骨髄バンク

トしたが、8月の献血並行登録会での登録者数は327名(月間総登録者数339名)、9月は574名(588名)、10月は472名(495名)、11月は277名(303名)と驚異的な数字となった。過去に富山県や福島県等で行われた方法と類似であるが、血液センター職員が調整することにより成果が出せることがわかる。今回、離島等での移動献血では登録会を実施しておらず、全ての献血会場で登録会を実施するとともに登録者は増加するだろう。全国の赤十字血液センターで骨髄ドナー募集を業務として実施するならば、1年間で



8月から雇用した説明員3名

ボランティアの抛り所としてできる人が、できる事を、できる時にをモットーに和を大切にやっていく」という趣旨の発言がありました。また、セミナーのテーマである患者支援のあり方では、リボンの会以外は具体的な活動を行つておらず、その方法などゆつくりと話し合う時間がありました。

続く懇親会では皆さんと美味な料理を囲み楽しく語り合い、またこのメンバーで活動を行つて行こうという決意を新たにしました。準備に奔走された宮崎の中村さん、遠方からみえた二見さん本場にお疲れ様でした。最後に職持さんの一日も早いご回復をお祈り申し上げます。(北村)

#### 東北 日本一大きい西明寺栗の ふるさとに集合!

11月14・15日秋田県仙北市の西木温泉クリオンに於いて、東北ブロックセミナーが行われ、26名が研修と討議を行いました。

スポンサーを募って、冊子「白血病と言われたら」を発病間もない患者さんに主治医を通じて配付しているという例や、医療講演会やいのちの輝き展・マモ展、あるいはチャリティライブなど、各地での活発な活動報告に刺激を受けました。輝き展のオープニングイベントでプロレスをやつて大いに盛り上がったという楽しいお話もありました。

また2010年秋に全国協議会20周年事業の一つとして、「ドナー」と患者さんにくさん集まってもらつて、出会えた奇跡を皆で噛み締めて大いに盛り上がる」という



イベントを福島が企画していますが、東北の団体皆でお手伝いして成功させよう、と誓い合つて解散しました。田沢湖・角館はあいにくの雨で残念でしたが、皆で大いに飲み、大いに語り合った二日間でした。(菅)

#### 北海道 患者支援のあり方を 原点から見直すために

11月28日、広い北海道各地から36人が集まり、年に一度のボランティアセミナーが行われました。全国に7人しかいないクリニカルコーディネーターの一人である札幌北極病院の山崎奈美恵さんに、「白血病患者の闘病生活」についてお話ししていただきました。家族に患者がいないボランティアには、患者さんの入院中や退院後の生活、退院してからの就労問題等、知らないことばかりでした。様々な問題を乗り越えて沢山の患者さんが元気に退院していると聞き、ボランティアとして励まされる思いがしました。GVHDに関して、「移植の際HLAの型が合う方が必ずしも良いとは限らない」という話が印象的でした。(水元)

### 骨髄バンク NOW

●ホセ・カレーラス クリスマス・コンサート  
12月9日、今年で7回目となるチャリティコンサート「ホセ・カレーラス クリスマス・コンサート」が東京都港区のサントリーホールで中外製薬の協賛により行われました。世界三大テノールとして知られるホセ・カレーラスさんは、ご自身も骨髄移植により白血病を克服して歌手活動に復帰されており、このコンサートの収益金の一部は財団に寄付されます。また、会場では財団職員が骨髄バンクの普及啓発活動と募金活動を行いました。

●上原投手、越智選手、東野選手が病院訪問  
12月8日、メジャーリーグオリオールズの上原投手と読売ジャイアンツの越智投手、東野投手が東海大学病院に入院中の子どもたちを訪ねました。上原投手はジャイアンツ時代を含めて4回目、越智選手は昨年に続いての訪問です。3選手は初めに無菌室を訪問して子どもたちにクリスマスプレゼントを手渡し、続いて院内学級でのクリスマス会に参加しました。サンタクロースやトナカイ姿の選手から子どもたちへプレゼントが手渡され、子どもたちから選手へも手作りのプレゼントが贈られました。ジャイアンツマスコットのジャビット君も参加して、楽しいひと時となりました。

◆日本骨髄バンクの現状(平成21年11月末現在)

	10月	11月	現在数	累計数
ドナー登録者数	4,345	3,110	352,047	449,049
患者登録者数	179	243	2,527	29,002
骨髄移植例数	107	126	-	11,178
20歳未満ドナー登録者	-	237	11,126*	-
51歳以上ドナー	234**	101**	16,666**	-

■11月の区分別ドナー登録者数:献血ルーム/922人、献血併行型集団登録会/1,956人、集団登録会/124人、その他/108人

### 骨髄バンクの最新情報をお知らせする

(財団マンスリーJMDP(12月15日発行)より抜粋)

●11月の移植件数が過去最高に  
本年11月の移植件数が126件で過去最高になりました。内訳は国内ドナー→国内患者:125件、国内ドナー→海外患者:1件です。今年の累計移植件数(1~11月)は1,109件で、年間で1,200件を超える見込みであり、過去最高のペースで推移しています。

●ドナー等休暇制度の実施  
企業や団体等に勤務する方がドナーとなる場合、検査、入院等のために平日に休暇をとらなければなりません。ドナーの方の負担を軽減するために、財団では各企業に対して、必要な休暇を特別休暇として認める「ドナー休暇制度」の導入について働きかけを続けています。  
一方、コーディネートの過程においては、ドナー本人だけでなく、ご家族も最終同意面談への同席や、施設によっては骨髄採取の際に待機を求められる場合があります。このたび、家族がドナー候補者となった東京都のある職員から、職員がドナーの家族として、最終同意面談等に同席するため休暇を取る場合に「ドナー等休暇」として制度化できないか、東京都に要望してほしいとの要請がありました。検討の結果、財団では「ドナー等休暇制度」として職員の家族が

コーディネートを受ける場合の対応を就業規程に定められました。また、公務員への導入について、東京都、人事院、総務省へそれぞれ要望書を提出しました。今後は企業に対しても、従業員がドナーとなった場合に併せて、従業員がドナーの家族としてコーディネートを協力する場合の休暇制度についても提案していく予定です。

<参考>財団法人骨髄移植推進財団就業規則より抜粋  
(骨髄液提供休暇)  
職員又はその家族が骨髄バンクを介した骨髄提供等を行う場合に、以下の各号のいずれかに該当し、当該職員から休暇の申し出があった場合は、必要な休暇を与える。  
(1)職員が骨髄バンクドナーに登録するとき  
(2)職員がドナー候補者または提供ドナーとして選ばれ、面談、検査、又は入院を行うとき  
(3)職員の家族がドナー候補者として選ばれ、当該職員が最終同意面談に出席するとき  
(4)職員の家族が提供ドナーとして選ばれ、当該職員が採取施設にて骨髄採取時の待機を行うとき